

# 平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(京極幼稚園)

## 1 平成27年度 重点評価項目

### 1. 主体的に進める遊びや生活 2. 安定感を基盤にした学級経営 3. 保幼小連携の推進

## 2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定						自己評価		学校関係者評価		
各項目にねらいを定めた取組の計画・実施						評価日		評価日		
取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						平成27年7月17日		平成27年10月22日		
						評価者・組織		評価者(いずれかに○)		
						評価委員会		学校運営協議会 ○学校評議員		
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策	学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学 校評議員による改 善に向けた支援策	
1	主体的な遊びや生活	目的をもった遊びや生活を進める力	・子どもと遊びや生活の振り返りの時間をもつ。 ・記録やエピソードを書く。	・喜んで登園し、楽しい幼稚園生活を送っていると思いますか。・園内研修の実施	「あてはまる」という回答率100%。記録から子どもの目的意識や意欲を高める援助を考察した。	⇒	子どもたちは幼稚園が好きで遊びや生活を楽しんでいると保護者は満足しているが、教師は子どもが楽しさとともに目的意識をもって遊んでいるか、そのための援助がさらに必要と考えている。	⇒	・幼稚園の前を通ると、子どもの姿と声から活発に遊んでいる様子がうかがえる。けがをさせてはいけなが、もっと大胆な遊びがあってもいいと思う。 ・運動会で見た年長児の帽子取りでは、教育目標にあげている「たくましさ」を感じた。	
		遊びを作り出し、展開するための環境構成	子どもと教師が作る場の構成、季節感のある環境。	幼稚園には子どもがいろいろな経験ができる環境が整えられていると思いますか。	保護者の「あてはまる」という回答率100%。教師は子どもの実態や季節に応じた環境のあり方(栽培計画など)を話し合った。					・子どもが意欲をもって遊んでいるか、記録やエピソードを通して考察する園内研修を行う。そのための時間の確保もしたい。 ・子どもの実態に適した教材をそろえたり、作ったりして、子ども自身が試したり考えたりできる環境を工夫する。 ・週案はねらいを意識した文章で書くように努力す
		週案の活用と見直し	PDCAが明確な週案の作成。	担任と園長がねらいと内容の整合性、援助の具体性を確認する。	園長が週案にコメントを記入し、整合性や具体性について担任と話し合った。					
2	豊かな心	温かな幼児理解をもとにした学級経営	一人一人を大事にするという教職員の意識作り	教職員は子ども一人一人に温かいかわりをしていると思いますか。	「あてはまる」という回答率が100%。	⇒	保護者は教師が温かくかかわっていると、教師を信頼していることがわかった。しかし、教師は様々な発達過程や個性をもつ子どもたちに応じたかわりが十分できていないと思っている。	⇒	最近競争や順位を決めない運動会もあると聞くが、負けて悔しいという感情を経験することは大事である。負けても頑張ると強い心を育てる経験になる。	
		友達と協同して遊ぶ力	友達と互いに思いや考えを伝えあって遊ぶための教師の援助について研修する。	園内研修の実施。	研究主題であり、研究保育で具体的な場面を取り上げて援助について話し合った。					・担任との信頼関係をベースに、クラスの友達と温かい関係が築けるように、子ども同士の力関係にも注意し、時には調整に入る指導を行う。 ・発達障害など様々な様相を見せる子どもに対応するため、専門機関との連携を学期に1回もつように時間を作る。
		総合育成支援教育	対象児の的確な実態把握と適した支援	園内研修と園内人権研修。療育機関・児童養護施設との連携。	各機関との連携を学期に1回もち、その後に全教職員に伝達研修を行った。					
3	健やかな体	生活習慣の自立	水道やトイレなどで、手洗いなど方法がわかるように掲示物を貼り、自分でできたという自信をもつ環境の工夫	自分でできることは、最後まで自分でしようとしていますか。	「あてはまる」という回答率が94%。	⇒	・年少児保護者の方が、家庭では子どもが自分のことが自分でできないと評価していた割合が高い。 ・施設遊具の安全について、ほとんどの保護者が安心されている。	⇒	交通量の多い今出川通など学区内に子どもにとって危険なところがある。不審者の目撃もされている。	
		危険なことに気付く力	子どもの動線を考えた安全な環境と自分の力を試すことができる環境の工夫。	子どもの安全に配慮した教育活動を行うことができていると思いますか。	「あてはまる」という回答率が97%。					
4	独自の取組	保幼小連携の推進	地域の保育所、小学校との交流のための研修の実施。	・地域と進んで連携しその特色を生かした体験が、保育に取り入れられていると思いますか。 ・幼保および幼小交流の研修の実施	「あてはまる」という回答率が97%。幼保交流の研修を3回、小学校の授業参観と懇談を2回もつた。	⇒	・幼保交流では事前事後研修をもち教師間での連携が円滑に行われている。年間計画外の交流も3回行い、子どもが互いに親しみを持つようになった。 ・長時間預かり保育、休業中預かり保育が行われ、保護者の利用度が前年度より高くなった。また、避難訓練を行い経路や体制を消防署に指導を	⇒	・小学生や保育所の子どもたちと一緒に活動することは、地域になじむようになる取組である。 ・預かり保育の時間が長くなったことは保護者にとって利用しやすくなったのではないかと。今後も続けて園児数が増えたいと思う。	
		家庭・地域との連携	日常的な家庭との連携・地域版での幼稚園教育の発信	教職員は保護者の思いを受け止め、家庭と連携していると感じられますか。	「あてはまる」という回答率が97%					・幼保交流、幼小交流の回数は前年度を基本にして、内容の見直しと継続を大事に考えたい。 ・保護者との信頼関係を築きながら、保護者の子育て観を知ってかかわっていきたい。 ・預かり保育の遊びを充実させるために、記録をもとに課題を見つけてい。
		子育て支援	預かり保育の記録の作成	預かり保育は、保護者の子育てで支援、子どもの安全な遊びの場として利用されましたか。	「あてはまる」という回答率が94%					